

極秘

昭和十七年九月十八日

鐵鋼減產事情

9

商工省鐵鋼局

1-3



目次

第一 鐵鋼減産狀況	1
第二 生産ヲ阻害セル原因	1
一、原料關係	1
(イ) 製銑關係	1
(ロ) 製鋼關係	2
(ハ) 鋼材關係	7
二、補修用資材關係	8
三、構内運搬用機關	8
四、勞務關係	9
(イ) 量ノ不足セルコト	9
(ロ) 缺勤率高マリタルコト	10
(ハ) 移動率高マリタルコト	10
(ニ) 質的ニ低下セルコト	10
(ホ) 未經験工ノ工員總數中ニ占ムル割合ノ増大セルコト	11
(ヘ) 職場ニ於ケル下剋上ノ氣風ノ横溢	11
(ト) 緊要職場ヲ忌避スル空氣ヲ生ジタルコト	11



①品位ノ低下

鐵鑛石ノ平均鐵分ハ從來五五%程度ナリシモ現在ハ五二%程度ナリ

鑛石變化ノ影響

石 釜	昭和十七年一―二月平均	鐵分	出銑量	銑鐵應當リ	
				鋼滓量	コークス量
差	五―六月平均	四九七%	九三三應	九四七貯	一〇五六貯
昭和十七年一―二月平均	五―六月平均	四七四%	九六二	一〇八六	一〇七四
差		二三%	(三三一%)	(一三九%)	(一七八%)
廣	昭和十七年一―二月平均	五二四%	一三三四應	九九二貯	一六三貯
差	五―六月平均	四六六%	一七一	一〇一	一六四
		五八%	(一〇八%)	(一〇九%)	(一〇一%)

②製鋼關係

(A)石炭ノ狀況

瓦斯發生爐用石炭(中塊)ノ入荷ハ益々困難トナリ之ガ入荷不圓滑ノ爲操業ヲ縮少セルモノ第一、四半期ニ於テハ積出セル有様ナリ

第一、四半期瓦斯發生爐用炭入荷成績(統制會關係)

物 動	割 當	實 入	足 荷
不	五三三千應	四九七	三六
			(鋼塊六〇波ニ相當ス)

又之ガ品質ハ著シク低下シ瓦斯發生爐操業ヲ困難ナラシメ發生爐瓦斯ノ悪化ハ製鋼時間ノ延長ヲ來シ生産能率ヲ低下セシメツツアリ

發生爐瓦斯分析(一例富士製鋼所)

昭 和	年 月	CO	カ ロ リ ト
昭 和	十 五 年 四 月	二 五 三 %	一、三 九 四
昭 和	十 六 年 四 月	二 三 一 %	一、三 〇 七
昭 和	十 七 年 四 月	二 〇 二 %	一、二 二 二
昭 和	十 七 年 七 月	一 八 九 %	一、二 〇 五

中塊炭ノ粒度規格ハ二〇―五〇耗ナルモ日鐵富士製鋼所ニ於ケル一五耗節ニヨル撰炭ノ結果ハ尾炭五〇%ヲ示シタリ、又最近八幡入荷ノ撫順炭ハ切込炭ヲ其儘送付シ來レル状態ナリ

(B) 重油ノ供給状況

重油ノ消費規正ニヨリ配給量激減シタルタメ相當數ノ平爐ノ燃料轉換ヲ實施シタルモ尙月一〇〇〇〇噸程度所要ナリ之ニ對シ現在ニ於ケル配給状況左ノ如シ

	平爐用	其ノ他用	計
四月	二五〇〇噸	一三〇〇噸	三八〇〇噸
五月	四六〇〇噸	一七〇〇噸	六三〇〇噸
六月	四五〇〇噸	一八〇〇噸	六三〇〇噸
七月	四八〇〇噸	一五〇〇噸	六三〇〇噸

(C) 鐵鑛石ノ狀況

製鋼用鐵鑛石ハ特ニ品質優良ナルヲ要シ馬來鑛石ヲ渴望シツ、アルモ之ガ入荷ハ物動計畫ノ半ニモ達セザル狀況ニシテ製鋼能率向上ヲ阻止シツ、アリ

(單位 千噸)

馬來鐵鑛石 入荷狀況	計畫		配船		計畫	配船豫定		計畫	計畫	年計
	計畫	配船	計畫	配船豫定		計畫	計畫			
物動割當	二〇	〇	二〇	〇	四〇	四〇	八〇	八〇		
A 船	二〇	〇	二〇	〇	四〇	四〇	八〇	八〇		
B 船	二〇	一九	二〇	二二・五	四〇	四〇	八〇	八〇		
〇 船	二七・五	〇	四二・五	四〇	一一〇	一一〇	一九〇	一九〇		
計	六七・五	一九	八二・五	六二・五	二〇〇	二〇〇	三三〇	三三〇		
不足	四八・五		二〇							

製鋼用屑鐵品質悪化 (一例 川崎製鐵)

計	不良			良質				計	四月	五月	六月	七月	平均
	薄物	ダライ粉	四收品	計	普通屑	特別二號屑	鐵道省拂下屑						
六七%	三	四一	二三	三三%	二六	五〇	二%						
八二	四	七三	五	一八	一五	〇〇	三						
六三	五	五五	三	三七	二三	一四	〇						
七三	二	六八	三	二七	一九	四一	三						
七二	三	六〇	九	二八	二一	五〇	二						

(四) 滿俺鐵ノ狀況

内地滿俺鐵ノ出荷ハ概ネ順調ナルモ品質ハ低下ノ一途ニシテ平均品位滿俺三三%珪酸一五一二〇% (會テハカカル不良品ハ商取引ノ對象トナラズ)ノ甚シキ狀態ニシテ製鉄、製鋼共作業ハ困難ヲ訴ヘツツアリ

良質滿俺乏シキ我國ニ於テハ或程度止ムヲ得ザル狀態ナルモ之ニ配スベキ南方良質滿俺鐵ハ物動計畫ニ對シ殆ンド入荷シ居ラザル現狀ナリ

計	高品位			低品位			計	第一、四半期計畫	同上実績
	佛印	比島	馬來	支那	外地	内地			
一二七五〇	二五〇〇	(B船) 一〇〇〇	二五〇〇	六四四五〇	四二五〇	五九七〇〇			
三〇〇〇	三〇〇〇		三〇〇〇	六二〇六〇	三七九〇	五八〇〇〇			

(單位 噸)



(9) 副原料

装入原料ノ品質低下ニ依リ製鋼時間ノ延長ハ爐床竝ニ爐壁ノ損傷率ヲ高メタル上ニ最近ハ爐材自體ノ品質低劣化ノ爲ニ出鋼后ノ爐ノ小修理竝ニ床焼付ケハ頻繁トナリ出鋼后装入開始迄ハ通常一五分ヲ要スルモノガ最近ハ三〇分―四〇分ヲ要スヲ普通トシ更ニ床焼付ケ一時間―一時間半ヲ要スル場合屢々生起セル状態ナリ之ガ爲實操業時間ノ減少ハ生産能率ニ相當ノ影響ヲ與ヘツツアリ尙石灰石、苦灰石、マグネシア等ハ各社トモ在庫僅少ニシテ辛ジテ操業ヲ維持シツツアリ之ガ原因ハ物動設定ニ當リ船舶緩和ノ窮餘ノ一策トシテ統制不完全ナル機帆船ニ過分ノ數量ヲ負ハシメタルニヨル副原料配船(日滿支)

本船積 機帆船積 計	物動計畫		配船		不足
	1/17	1/17	1/17	1/17	
三〇八	五六一	二五七	二五七	五	
五六二	二三〇	二三〇	三三二	三三二	
八七〇	四八七	四八七	三八三	三八三	

(10) 製鋼能率ノ低下

以上ノ諸悪条件累積ノ結果トシテ各社トモ製鋼時間ハ著シク延長シ出鋼回数ハ激減シ製鋼能率ハ低下スル處ヲ知ラズ備境

一日當り出鋼回数 良塊歩留	一五年		一六年		一七年(七月)		七月下半年	
	四回	三三	三三	三二	三二	三九	八六五	二九
八九七多	八九五	八九四	八九四	八九四	八九四	八九四	八九四	八九四
五時二六分	六時二六分	六時四八分	六時四八分	七時一七分	七時一七分	七時一七分	七時一七分	七時一七分
六應八二六	五應六八〇	五應五七八	五應五七八	五應五七八	五應五七八	五應五七八	五應五七八	五應五七八

一日當り出鋼回数 良塊歩留	一五年		一六年		一七年(七月)		七月下半年	
	三一	二六	二五	二二	二二	二二	二二	二二
九〇九多	九〇〇	九一七	九〇九	九〇九	九〇九	九〇九	九〇九	九〇九
六時五〇分	八時二分	八時三分	八時三分	九時二分	九時二分	九時二分	九時二分	九時二分
一一應〇七三	八應八七五	八應七〇三	八應七〇三	七應三三〇	七應三三〇	七應三三〇	七應三三〇	七應三三〇



ニ補修用資材關係

前年昭和メ各社必要ナル資材ハ二、三年來入手難ヲ續ケ既ニ取換時期ニ到達シタル設備モ新品ノ入荷乏シク補修維持用資材ノ入手モ不圓滑ニテ之ガ累積ノ結果ハ最近頓ニ故障ノ頻出ヲ見ツツアリ然シテ一度故障トナレルモ之ガ修理用ノ資材又入手不圓滑ニテ修理ノ遅延從テ生産ニ及ボス惡影響ハ覆フベカラズ故障ニヨル作業中止ハ諸處ニ生起シツ、アリ

主ナル不足物資ハ左表ノ如ク逼迫ヲ告ゲ居ルモ特殊ナルモノトシテハ最近中板、ボイラーチユーブ、ワイヤロープ、セメント、築爐用苦汁、爐體乾燥用松薪等ニ至リテハ修繕タル状態ナリ
鐵鋼部門補修用資材配給表

(單位 噸)

資材名	十六年度		十七年度		備考
	需要	削減實績率	需要	物動削減率	
普通鋼々材	九九七五〇	六四八八〇	一〇三〇六七	七八九七〇	七七%
電氣銅	二二三一	八四八三八%	二二三〇	五四五	二三%
石綿	六四〇	八〇	八七〇	九五	一二%
生ゴム	四八七	一一二	五五三	一五〇	四五%
マニラ麻	一六八	六六	一八〇	一二五	六九%

三構内運搬用機關

トラック等ニヨリ構内運送力極度ニ逼迫シ製鐵工場ニ於ケル一ノロノ搬出、送塊場ノ鋼滓整理及製品ノ積出等各生産工程ニ著シキ支障ヲ來シ増産ハ素ヨリ減産ノ主要ナル一因ヲナシ居レリ
今トラックノ不足狀況ニ關スルハ二ノ會社ノ實例ヲ舉示セバ此間ノ實情ヲ窺知シテ餘リアルベシ

日本鋼管	昭和十六年八月		昭和十七年八月		差引増減
	備上	家用	備上	家用	
計	二〇七臺	一〇七臺	一一七臺	△九〇臺	
備上	一八臺	一〇臺	△八臺		
家用	五四臺	四六臺	△八臺		
備上	一五三臺	七一臺	△八二臺		
家用	五四臺	四六臺	△八臺		

破損ノタメノ減新造ヲ目下縣ニ申請中
吾孺製鐵自家用ナシ



四 勞務關係

(1) 員ノ不足セルコト

在籍者數ヨリ見レバ勞務者ハ本年六月末現在ニ於テハ昨年同月末ニ比シ些シタル減少ハナシ居ラザルモ本年度生産目標達成ノ爲ノ所要員數ヨリ見レバ概ネ八〇%程度ノ充足狀況ニシテ小倉製鋼平爐關係ノ如キニ至リテハ僅々四〇%程度在籍スルニ過ギザル實狀ナリ

厚生省ノ割當過少ナルコトハ素ヨリ其ノ最大ノ因タルモ最近ニ至リテハ職業指導所ガ徵用事務ニ追ハレ普通充員ノ斡旋能力益ク低下シタルコト及指導所ニ於ケル斡旋モ製鐵業ノ如キ高熱、重筋、危險作業希望者激減ノ現狀ニ於テハナサントスルモ能ハザルコト等ニヨリ割當數スラ確保シ得ザルコトモ亦其ノ因ヲナスモノナリ

附表

定員ニ對スル不足數

社名	日本製鐵		計	社名	日本製鐵		計
	八幡	其ノ他			八幡	其ノ他	
製鐵作業	一、六五四	一、〇八六	二、七四〇	製鋼作業	一、一三三	四二五	一、五五八
鑄造作業	一、四九四	六四一	二、一三五	其他作業	六八六	三二六	一、〇一二
計	一、二一六	一、七三二	二、九四八	計	一、八二五	七五一	二、五七六
日本鋼管	六三三		六三三	日本鋼管	八七七	一、四五一	二、一三三
其ノ他	五三四		五三四	其ノ他	一、七六七	三、六〇五	五、三八二
計	三、九〇七		三、九〇七	計	四、一八四	五、〇六〇	九、二四四

註 昭和十七年七月末定員八一六五〇八九人ナリ



(2) 供動率高マリタルコト

最近ニ於ケル缺勤率ハ實ニ二〇%乃至四〇%ニ上リ殊ニソノ中ニ〇%以上ハ長期缺勤ニシテ之ガ原因トシテハ

(A) 物價高ニヨリ生活難ノタメ統制工ハ當該工場ニ在籍シ乍ラ他ノ職場ニ自由労働者トシテ稼働シ居ルコト

(B) 生活必需品特ニ食糧入手ノ爲家族ニ人手ナキトキハ自ラ之ガ入手ニ奔走スルコト

(C) 長期ニ亘ル労働強化ノ爲管テノ精勤工モ體力低下セルコト

(D) 労働者ノ質的低下ハ長時間ニ亘ル熱作業ニ堪エザルニ至リタルコト

等ヲ認めラル

(イ) 移動率高マリタルコト

労働者ノ絶體量ノ不足ニ加ヘテ賃金統制令ノ運用不圓滑、供給人夫ノ賃銀無統制ナル實狀下ニ於テハ製鐵業ノ如キ高熱、重筋、危険作業ヲ主トスル産業部門ノ移動率ヲ高クスルコトハ自然勢ナリ

更ニ専業主働ニ於ケル勞務管理ノ不手際ハ之ニ拍車ヲ掛ケ最近ノ移動率ハ實ニ三五%ヨリ高キハ四〇%ニ及ブ
質的ニ低下セルコト

從來農村ヲ供源トシタル場合ト異ナリ最近ノ中小商工業ヨリノ轉業者、半島人、供給人夫、季節労働者等ヲ供源トスルニ至リテハ労働者ノ肉體的、精神的素質ノ低下ハ寒ニ寒心ニ堪エザルモノアリ蓋シ之ガ生産ニ及ボセル影響ハ特ニ大ナルモノアリ



未経験工ノ工員總數中ニ占ムル割合ノ増大セルコト

(A) 本年應召者ノ抽出率ニ昨年六月ノ大充員召集者中ニハ二十五才ヨリ三十五才ニ亘ル尤モ有爲ナル基幹職工ガ大部分ヲ占メテ居タコト

應召者 者 調

昭和十七年一月末現在

會社名	項別	應召者總數	内		
			技術者	熟練工	其他
日鐵(六工場)		八九九三	二一五	三、六五六	五、一二二
川崎重工業					
製鋼		二、三三	?	?	二、三三
製飯		九六一	七	六五八	二九六
住友、鋼管		八四四	一三	六二五	二〇六
其他		六、一六五	一三五	四、〇三八	一、九九二
計		一七、一九六	三七〇	八、九七七	七、八四九

(B) 從業者移動防止令ノ施行ト勞務調整令施行ニ依ル之ガ強化

ト相俟ツテ經驗工ノ吸收困難トナルコト

(C) 職場ニ於ケル下剋上ノ氣風ノ横溢

任長組長等上長ノ命令ニ服從セズ些細ナ事實ヲ口實ニシテ上
 役ニ反抗シ任長組長等モ缺點ナルコトヲ悉レ職力ヲ統制力
 ヲ發揮スルコトヲ得ズ上下一致團結苦境ヲ切實ニシテ
 シキコト

(D) 緊要職場ヲ忌避スル空氣ヲ生ジタルコト

高爐、平爐、壓延、造塊作業等最モ工場中ニ於ケル基礎職場
 ハ高熱、重筋、危険且單調勞働ノ爲新規ニ他ノ職場ヨリノ配
 置替ハ極力忌避ノ風横溢シ偶々此職場ニ配置スルヤ缺勤率亦
 移動率極メテ高キハ遺憾ニ堪エザル處ナリ

此傾向ニ對シテハ賃銀統制令ニ於ケル除外例ノ運用ニ依ル賃
 銀値上及臨時手當支給其他ノ方法ヲ以テ相當程度事態ヲ緩和
 シ得ルニ拘ラズ事業主側ニ於テ之ニ萬全ノ努力ヲ效サズ生産
 能率ノ昂進ニ積極的協力ヲ示サザルハ亦怠業ノ實ヲ免レズト
 云フベシ



No. 18

增
補
抄
本

(明治
乙未)

1-3

